

司式 熊田雄二牧師
奏楽 大日南苗香姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 14:1 ほめたたえよ創り主を

ほめたたえよ 創り主を きよきみまえに ひれふし

ささげまつれ 身をもたまをも たぐいなき御名をあがめて アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 (詩編51編)

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。

わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰っしないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 71 それ神はその独り子を

それ神はその独り子をたもうほどに 世を愛したまえり

すべて彼を信ずる者の 滅びずして とこしえの命を得んためなり

それ神は世を愛したまえり 世を愛したまえり アーメン

公同の祈禱 祈禱書28 聖餐式主日 ③ 伝道

主なる神さま、あなたは、御独り子をわたしたちの間に住ませ、わたしたちの喜びや悲しみを知る者とされました。主は病める者をいやし、罪人の友とられました。

わたしたちは、聖餐式にあずかるたびに、主の死を告げ知らせる使命を覚えます。十字架において、主は、全世界の罪のために、完全ないけにえとなってくださったことを、すべての人に宣べ伝えることができますように。

(マタイ9、イザヤ53、ヘブライ7、IIテモテ4)

献 金 (黒)教会活動 (赤)東部中会青年会修養会 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ

アーメン

幼児洗礼式

聖書朗読 ルカによる福音書1章1～4節(新約聖書99頁)

説教・祈禱 「すべての事を初めから」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 24:1 まぶねの中にうぶごえあげ
まぶねの中に うぶごえあげ たくみの家に 人となりて
貧しき憂い 生くる悩み つぶさになめし この人を見よ アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 68あまつ御民も地にある者も

あまつ御民も地にある者も 父・子・御霊の神をたたえよ

神をたたえよ アーメン

* 祝 禱
後 奏 (黙禱)
報 告

門脇陽子長老

I ルカによる福音書講解説教について

マルコ、マタイ、ヨハネの福音書は、すでに扱いました。1999～2010年。福音書を扱うのは10年ぶりです。

今年、夕拝でルカによる福音書を始めたのですが、疫病対策でできなくなりましたので、朝拝で扱うことにしました。夕拝は円形ワークショップですので、原稿を書かずに質疑応答も入れるという楽しさがあったのですが、朝拝ではそれができません。

それでも自由に書き始めましたら、きょうはルカ福音書本文には入れず、福音書概論みたいになりました。きょうの説教題は、次回の説教題になります。まあ、何事も基礎研究が大事なんだと思ってください。

II 共観福音書について

① マタイ、マルコ、ルカによる福音書は「共観福音書」と呼ばれます。「共観」とは同じ観点から観るということですが、マルコ福音書が先に書かれて、マタイとルカはマルコ福音書の観点を基本にしているので、マタイ、マルコ、ルカは「共観福音書」と呼ばれると言っていいでしょう。つまり、「共観」の原点はマルコ福音書です。

では、マルコ福音書の観点とは何か。それはマルコ福音書の構成に見られるので、その構成を知れば、マタイもルカもだいたい同じ構成になっているんだと分かります。そこで「共観」とは、基本的構成が同じなのだということが分かります。

では、マルコ福音書は、どのような構成になっているのでしょうか。マルコ福音書は、「神の子イエス・キリストの福音の初め」というタイトルで始まり、洗礼者ヨハネの登場と、ヨハネからメシア任職の洗礼を受けて、主イエスがメシアの仕事を開始されたことから始まっています（マルコ1章）。

そこでマルコ福音書は、主イエスが30才になってキリストとして働きをなさった3年間を扱っていることが分かります。誕生物語はありません。だから、人間の伝記物語のような「イエス伝」ではなくて「イエスがキリストであること」を証明しようとした「キリスト伝、キリスト証言の書」なのです。

マタイとルカは誕生物語を加えましたが、基本構成はマルコをベースにしたので、同じく「キリスト証言」の書です。復活の主イエスが弟子たちに現れて、「聖霊が降ると、・・・あなたがたはエルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また地の果てに至るまで、私の証人となる」と言われた通りです（使徒言行録1：8）。生きておられるキリストの言葉が実現しているのです。そこで新約聖書の書物は、マルコ福音書始めすべて、キリストの証人たちが、「イエスがキリストであること」を証言した書物なのです。

② では、何をもって、証人たちは証言したのでしょうか。それは旧約預言の成就です。マルコ1：2「預言者イザヤの書にこう書いてある「見よ、私はあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。荒れ野で叫ぶ者の声がある。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」」。

この預言、実は、「見よ、私はあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。」の部分、預言者マラキの書3章1節です。お手持ちの聖書の、新約聖書の始まりのすぐ前が「マラキ書」です。ついでながら申しますと、マラキ書最後の3章23-24節には「見よ、私は大いなる恐るべき主の日が来る前に、預言者エリヤをあなたたちに遣わす。彼は父の心を子に、子の心を父に向けさせる。私が来て、破滅をもってこの地を撃つことがないように。」とありまして、そこで旧約聖書が終わり、ページをめくれば新約聖書のマタイ福音書となります。

そこで人々はメシア到来の前に、預言者エリヤが来ると思っていました。エリヤは死なないで天に引き上げられた唯一の預言者なので、人々は特別な預言者だと思っていました。弟子たちも、まずエリヤが来るはずだと聞いていましたので、主イエスに質問したことがあります。すると主イエスは「エリヤはもう来た」と言われました。そこで、弟子たちは洗礼者ヨハネのことだと悟りました（マタイ17：13）。

③ さて、「見よ、私はあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。」というマラキ書3章1節に続く、「荒れ野で叫ぶ者の声がある。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」は、イザヤ書40章3節です。マルコは、「預言者イザヤの書にこう書いてある」という言い方でマラキ書の引用も含めていますので、「イザヤ書」に預言の成就を代表させています。それほど、メシア預言の中心となる書物は「イザヤ書」です。

そして、マルコ福音書がイザヤ書40章の引用から始めていることには、特別な意味があります。イザヤ書40章は、イザヤ書後半の始まりなのです。前半は、王でもあれば神でもあるようなメシアを語ります。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ」（7：14）。マタイ福音書の誕生物語がこれを引用していますが、「インマヌエル」とは「神はわれわれと共におられる」という意味だと説明してくれています。「その子をイエスと名付けなさい」の「イエス」は「罪から救う」という意味だと説明したあとです。そこで、罪から救われた状態とは、「神はわれわれと共におられる」状態だということだと分かります。

「ひとりのみどりごが私たちのために生まれました。ひとりの男の子が私たちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神、永

遠の父、平和の君』と唱えられる。ダビデの王座とその王国に権威は増し、平和は絶えることがない。」（9：5-6）。ダビデ王に約束された「永遠の王座に着く者」は、「ダビデの子」というメシア用語になりましたが、ダビデ王以上に「力ある神」なのです。

「エッセイの株からひとつの芽が萌えいで、その根からひとつの若枝が育ち、その上に主の霊がとどまる。」（11：1-2）「エッセイの根より」というクリスマスの讃美歌が、この聖書箇所から作られたことが分かります。エッセイはダビデ王の父なので、「ひとつの芽」、「ひとつの若枝」がメシアを表わす用語になりました。

「荒れ野よ、荒れ地よ、喜び躍れ。砂漠よ、喜び、花を咲かせよ、野ばらの花を一面に咲かせよ。・・・そのとき、見えない人の芽が開き、聞こえない人の耳が開く。そのとき、歩けなかった人が鹿のように躍り上がる。荒れ野に水が湧きいで、荒れ地に川が流れる。」（35：1,5-6）洗礼者ヨハネが逮捕された時、牢獄から弟子たちを主イエスのところに遣わして「待ち望んだメシアは、あなたに間違いないですか」と念を押しました。その時、主イエスが引用されたのが、この箇所です。救い主登場によって起こっている出来事を見よ、と言われたのです。

以上のように、イザヤ書前半は、王でもあれば神でもあるようなメシアを語ります。それに対して後半は、王でもあれば神でもあるメシアが苦難のしもべになっていく有り様を語ります。特に四つのしもべの歌が特徴的です。

- | | | |
|----|-------------|------------|
| 第一 | 42：1～9 | 主のしもべの召命 |
| 第二 | 49：1～9 | 主のしもべの使命 |
| 第三 | 50：4～11 | 主のしもべの忍耐 |
| 第四 | 52：13～53：12 | 主のしもべの苦難と死 |

つまり、イザヤ書に預言されたメシア像は、前半が王、後半がしもべです。マルコ福音書がイザヤ書後半の始まりを引用しているのは、もう、十字架の死に至るまで従順なしもべの姿となられたキリストを知っているからです。十字架に架かるために、天からへりくだって来られたキリストを描こうとしているからです（フィリピ2：6-8）。

④ そこで、マルコ福音書の前半は、王でもあれば神でもあるメシアが、言葉で嵐を静め、言葉で病を癒し、言葉で悪霊を追い出し、言葉でパンの奇跡をなされたことを描きますが、後半は十字架に向かって行く苦難のしもべを描いたのです。

前半と後半の分岐点はどこかということ、弟子たちの信仰告白です。「人々は私のことを何者だと言っているか」と主イエスの方からお尋ねになり、弟子たちは「処刑された洗礼者ヨハネの生き返りだ」、「エリヤだ」、「預言者の一

人だ」とか言われていますと、答えます（マルコ8：27～30）。

そこで主イエスは、「それでは、あなたがたは私を何者だと言うのか」と、問われました。弟子の代表ペトロが「あなたは、メシアです。」と答えました。すると、「メシアは十字架に架かって死ぬことになっている」と明かされましたら、ペトロは「そんなはずはない」と否定します（マルコ8：31～）。

しかし、その時から主イエスは十字架に向かって行かれましたので、これより後半に入りますと、マルコは記したのです。マルコはペトロの弟子ですから、キリストの死と復活ののち、変えられたペトロから教えられたのです。マルコによる福音書というのは、実質的にはペトロによる福音書なのです。いちばん弟子のペトロが、イエスを何と告白するか、これがテーマです。一般的なユダヤ人のように、メシアはダビデ王のような英雄だと思っているままか、王なのに苦難のしもべになられたとメシア像が変えられたのか、前者は滅びに至る広い門であり、後者は救いに至る狭き門です。

ペトロから学んだマルコ福音書のメシア像は、イザヤ書のメシア像に他ならないのです。そこで、イザヤ書とマルコ福音書のメシア像が正統的メシア像です。これを骨組みにして、マタイとルカは、それぞれ福音を伝える相手に応じて、イエスこそキリストであると証言し証人となっているのです。

マタイはキリストの十二弟子ですから、イスラエル十二部族に向かって、イエスこそキリストであると証言しています。そこで、「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図」から入ると、イスラエル人には分かりやすい話として続くのです。異邦人は面食らうのですが。

ルカは異邦人伝道の使徒パウロの弟子ですから、ルカによる福音書は実質的にはパウロによる福音書です。私たちはイスラエル人ではなく異邦人です。異邦人にも福音は宣べ伝えられましたから、イエスを何と証言するか、復活の主イエスは、今、証人となる弟子たちにも問うておられます。

Ⅲ すべての事を初めから 次回

ルカ文書について 福音書と使徒言行録

宛先「テオフィロ」

多くの人がすでに手を付けている 様々な福音書

すべての事を初めから詳しく調べ 資料 取材